

京都大学 化学研究所 化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際グローバル研究拠点



拠点長: 辻井 敬亘

- 国際共同利用・共同研究の一層の促進、国際学術ネットワークの充実、国際的視野をもつ若手研究者の育成といった取組を通じて、国際的ハブ機能を活用した**化学を中心とする研究分野の深化**と**国際境界学術分野の新規開拓**に取り組む体制を構築する。

研究所の概要

研究分野: 化学関連分野
(有機化学、無機化学、物理学、生物学、情報学)

研究者数: 98人(平成30年5月1日現在)

実績: 現行の共同利用・共同研究拠点事業において、採択課題の約20%を国際共同研究枠として推進。なかでも、**台湾との二国間国際共同研究が台湾・イギリス・フランス・ドイツの多国間連携(JSPS Core-to-Coreプログラム)へ発展。**

学術交流協定(MOU, 締結実績22カ国70件)を基盤に、MOU連携ウィークを開催(平成28年3月)。

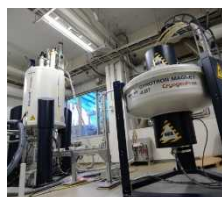
当該研究所の現状分析

化学研究所が、今後も国内外の学術研究機関のハブとして機能するためには、**国際ネットワークの密度を高めて多機関連携・異分野融合に基づくハブ機能を強化し、さらに、将来を見据えて、当研究所独自の若手研究者国際派遣受入事業を充実させる必要がある。**



機能強化を図る取組

- 国際共同利用・共同研究枠を**採択数の50%程度まで拡大する。**(うち若手国際共同利用・共同研究枠10件程度)
- **若手研究者国際派遣受入事業の支援**を充実する。
- 国際ハブ環境充実のための国際シンポジウム・研究会を開催する。
- 先端国際協力開拓委員会、International Advisory Boardを設置する。
- 先端機器・設備、データベースを国内外研究者へ提供する。



多目的高機能NMR群



高機能電子顕微鏡群



ゲノムデータベース
KEGG

機能強化により期待される効果

- 化学関連分野の深化、国際学術ネットワークの充実(**学問的波及効果**)。
- 新産業創成に資する学際分野の開拓、先端研究に関する社会啓発(**社会的波及効果**)。
- 国際的視野を併せ持つ若手研究者育成(**教育研究活動改善効果**)。